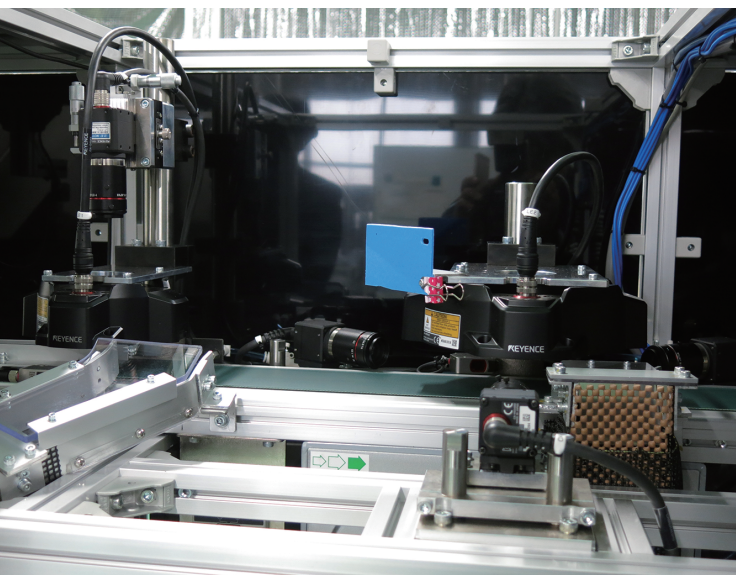




工場の自動化装置の設計・制作・販売で創業 「いずれは海外の市場も目指したい」と



外観検査装置（カメラ画像検査システム）の一例。カメラやレンズ、照明装置の選定を含め、製造ラインに合わせて最も効率のよい検査システムを提案。



精密加工装置の一例。省スペースかつ高精度の加工を可能とし、NC制御によりオペレーターに寄り添った機械システムを提案している。

PROFILE

所在地 富山市横内147
代表者 渡辺 亮介
資本金 50万円
従業員 5名
事業 各種検査装置、NC装置、FA装置、治具などの製造・販売
TEL 076-456-6680
FAX 076-456-6680
URL <https://www.nfa-es.co.jp/>

渡辺亮介社長

「渡辺さん、また一緒にやらないか。といっても今度は客先を棲み分けし、君には樹脂製品メーカーを掘り起こしてもらいたい。当社は従来通り金属製品メーカーを担当していくけど、今ならまだ体力があるから、君の創業を応援できると思うのだが……」と、かつての勤め先の会長から連絡があったのは平成27年の春頃のこと。渡辺さんはかつて、その会長が経営していた会社で、金属製品のメーカーの生産現場のオートメーション化に取り組み、工場の要望に合わせて自動化をカスタマイズする仕事をしてきたのだが、見聞を広めようと、樹脂製品メーカーのオートメーション化に取り組む大手企業に転職。富山でセールスエンジニアの仕事をしていたのだ。

「対象製品が金属か樹脂かの違いはありますが、自動化のために各種機器をシステム設計し、生産ラインに合わせてカスタマイズするというのは同じことでした。ましてや転職後の勤務先は、樹脂製品メーカーの工場を自動化することを営業品目としていましたので、そこでの3年近い経験が生かされることになるわけです」

渡辺さんは創業前をそう振り返るが、「今ならまだ体力があるから応援できる」という会長の言葉に背中を押されて創業を決意したのだ。時は平成27年9月。知人から「生産現場経験のあるシニアがもうすぐ定年を迎えるらしい」との情報を得て、再雇用を打診するとOKの返事が返ってきた。渡辺社長はエンジニア1名を社員として迎え、NFA R&D (NIPPON FACTORY AUTOMATION Research & Development) の旗を揚げたのだ。

創業すると知人が有益情報を、 その1つが……

樹脂製品の生産ラインの自動化……。例えば皆さんお使いのスマホを例に説明すると、外側の筐体（ボディー）は厳しい検査を通して、キズや接合部のズレ等がないようになっている。かつては目視、つまり人の目による検査が行われていたのだが、例えばAさんとBさんの検査基準

支援内容

○創業・ベンチャー挑戦応援事業

が違くと、品質にばらつきが生じてしまう。それを、人の目をカメラに置き換えて、一定の基準を満たさない製品を取り除くようにセットすると、品質が均一化される。これは画像検査システムで、同社が得意とする自動化のひとつの分野であるが、この他に自動搬送装置や自動組立装置などをカスタマイズして県内の樹脂製品メーカーを中心に売り込もうというのだ。

「創業前の会社の友人や取引先が、私が独立したことを聞きつけて、樹脂製品メーカーに売り込んでくれたのです。大手樹脂製品のある工場からは、『そんな人がいるなら、ウチの工場に一度来てもらいたい』と声をかけていただき、それを縁にシステムを納めさせていただきました。するとそのメーカーの他の工場からも声がかかりました。また当社の仕入先の代理店が、他の工場で当社のことを話してくださり、そこでも1つの工場から始まった自動化が、『ウチでも……』と系列の他の工場からオーダーが入るようになり、幸先のよいスタートを切ることができました」

取引先の金融機関からも有益な情報がもたらされた。創業時の機械設備の導入や販促用パンフレットの作成、あるいは人件費の一部などを助成する、当機構の「創業・ベンチャー挑戦応援事業」への申請を強力に勧め、その内容を詳しく伝授してくれたのだ。

自動組立装置の一例。この装置では単なる省人化を目指すのではなく、均一で優れた品質の製品を素早く生産することを目標としている。



従業員の皆さんの働く様子。

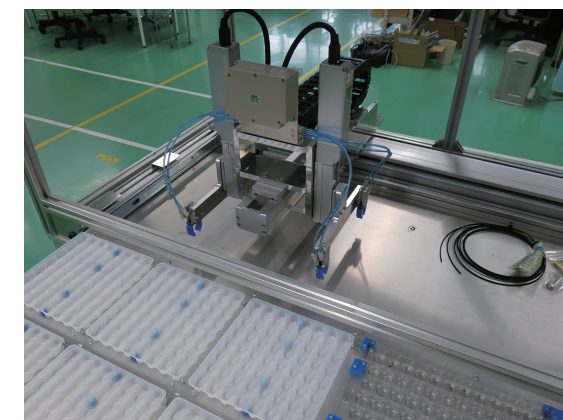
「会長の会社に間借りして、机1つと電話1本を置かせてもらい、機械や工具はお借りしての創業でした。順調に仕事が入ったとはいえ、設備や自前の工場を持つには大きな投資が必要になりますから、創業時の助成は本当にありがたかった」と渡辺社長は語り、「将来的には販促をアシストしていただくような制度も活用したい」と続けた。

まずは中国、そしてASEANの国々へも

渡辺社長のその目は、大都市周辺の工場群のほかにも中国や発展著しいASEANの国々にも向けられている。

「実は、前の職場の上司が神奈川県で機械商社を創業し、横浜や厚木の工場の自動化の仕事を紹介してくれました。これを機会に首都圏での実績を増やしていきたい。またIoTの進展により工場のスマート化はもっと進むでしょうから、それを踏まえて自動化のシステムも充実させたい」

渡辺社長は意気軒昂だ。その勢いに乗って昨年春に、東京・新宿にオフィスを開設。「海外展開を考えたら、東京に事務所があるというのは、大きなファクターになります」と夢は万里の波濤を超えて、アジアの国々での拠点設置に向けて動き出しているようだ。



自動搬送装置の一例。製造ラインに応じたワークの提供からコンベアやインデックスによるワーク搬送を行う。写真の自動搬送装置（カスタマイズ中）は、右下の透明トレイに並べられた樹脂製品をつかんで、左の乳白のトレイに並べる。